

航空機訓練移転プログラム

“日本の防衛のための相互運用性の向上”



基本情報

航空機訓練移転(A T R)プログラムは、2006年5月の再編実施のための日米のロードマップの成果として生まれたものである。この2国間プログラムの目標は、作戦即応性の強化、相互運用性の向上、そして地域への航空騒音の影響の軽減であり、三沢基地、米海兵隊岩国基地、嘉手納基地を本拠とする米軍のジェット戦闘機の訓練を、6箇所の日本本土の自衛隊(航空自衛隊)基地-築城基地、新田原基地、百里基地、千歳基地、小松基地、三沢基地(自衛隊側)-に移転することによって実現している。2011年には、米国施政権下の領土(グアムなど)も、航空機訓練移転プログラムの重要な移転先として追加されている。プログラムには、日米両政府による経費負担合意で出資されている。米軍は、MV-22BやKC-130Jなど、他の基地の支援航空機も対象としている。

作戦即応性の強化

航空機訓練移転プログラムによって、海兵隊航空部隊は、訓練所要を満たすため、様々な地域の様々な機会に接することが可能となる。

相互運用性の向上

航空機訓練移転プログラムの各事業は、日米両国の部隊相互の戦術や能力の理解を促進する。航空機訓練移転プログラムは、海兵隊航空部隊と航空自衛隊に対し、相互運用性を成熟させる素晴らしい機会を提供し、より能力のある同盟に貢献している。



地域の航空騒音の軽減

航空機訓練移転プログラムの重要な成果は、一地域に集中していた騒音公害を、日米両国のバランスのとれたアプローチにより様々な地域に分散することによって軽減することである。2007年以来、数多くの航空機訓練移転事業が米軍部隊によって実施されている。これらの中で、岩国航空基地に配備されているジェット戦闘機や、沖縄を拠点とするMV-22BやKC-130Jなどの支援航空機は、日本本土や米国領で実施された航空機訓練移転事業の半数近くに参加している。航空機訓練移転プログラム事業の殆どは、沖縄から移転されているものである。したがって、このプログラムの目標は、米軍が、地域への騒音の影響を軽減しながら、必要な訓練目標を達成し、同盟国としての義務を果たすことを可能にしている。